
essais ころみ 2025年2月

2025年2月1日（土） 曇

早朝は陽もさいしていたが、雲がひろがってきた。夕方には雨が降るらしい。今日から2月、ここから時間のすぎるのがはやい。年度末、新年度を前に世の中もあわたたしくなる。季節の変わり目でもあるから、体調に気をつけよう。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』むすび

昨年10月下旬に思いたち、自分の仕事のベースを少し紐解いてみた。はっきり意識してではなかったけど、今年で事務所開設30周年になることもあってだとおもう。

読む、書く、算ずる、憶える、纏めるの5つの知の活動のうち、「まとめる」は事を俯瞰し、気づき、認識の定着あるいは刷新のプロセスでもある。『自業のすすめ』のときにそれ実感した。

今回はちょっとした「まとめ」なので、それほどでもない。でも大切なことを大切なこととして再認識したし、記録して残るのがいい。たぶん、後にこの意味を感じると思う。2020年に音声でまとめた自業のショートストーリーのように。

自分の歴史を大きく区切ると独立する前と後。独立志向なんてまったくなかったのだから、劇的変化とっていい。でもその伏線はしっかり自分で作っている。ふりかえるとそれがよくわかる。

それに「劇的変化」というのも、見た目の環境変化はそうだけど、内面に目をむける、根っこは変わっていない。否、それを変えないためにも、考え、動きを変えてきたのではないかな。

LYK流「パーソナル・アシスタント」は、仕事のコンセプトというよりライフ上のテーマ、と思いたって久しい。自分をとくまく世界のごく限られた人にはなるが、この道はずさず、進んでいくとしよう。

2025年2月3日（月）立春 曇

立春をむかえたが、今週はかなり寒くなる。その後はたぶん一気に春めいてくる。梅はそろそろ見頃か、人の少ないときに梅林でも散歩してみよう。

— 暦・こよみ —

二十四節気と旧暦の話をしたところ、「気持ちに余裕がでる感じですよ」と言った人がいる。一般のカレンダーだけしか気にしていないので、いつも時間に追われている感じがしていると自分をふりかえりながら。

気持ちに余裕、たしかにそれはある。時間を重層的とらえられるからかもしれない。二十四節気なら、季節の先どり感もいい。陽ざしがしっかり春めくのは春分の頃だけど、立春前後からもう微妙に変わり始めている。

季節の花々、草木も、見頃のずっと前から愉しむ気にもなる。梅の品種には「冬至」があって、大阪城公園の梅林へ年末には一度チェックしに出かける。昨年末は咲いていなかったけど、咲いている年もある。

夏の土曜の丑の日に鰻を食べる、のように暦には風習がついていることが多い。そのタイミングに誰かに手紙をだしたり、食事にさそったり、挨拶にいたりする。良い〈口実〉になる。

今年の立春は4年ぶりに3日になった。国立天文台の礫計算室は翌年の二十四節気を掲載してくれている。その先は「こひみのページ」を愛用させてもらっている。

二十四節気の中でも個人的に想い入れのあるのは、立春、清明、そして冬至。春がくる、春本番、そして1季節の終わり。終わりがくると、始まりがくるわけだから、新しい春の予感。やはり春が一番というアとか。

2025年2月5日（水） 晴れ

朝の気温1℃、さすがに寒い。それでも大阪の寒さはしれている。ニュースによると、たった二日で2メートル雪が積もった地域がある。どんな生活になるのか、想像を絶する。

— 希望的観測 —

今朝のessaisで話した「希望的観測」のことは、先月26日に考えがうかんだ。すぐにメモしてあった。現実世界を俯瞰し、大局をとらえつつ、希望的観測をとる。そう心がけようと思った。

「自己成就の効果」とフランスの数学者はいい、「自己実現性予言」と著書に書いたのは中井久夫先生。前者はプラス面の意味合い、後者は、たとえば持病が悪化するかもしれないと人に言われると、実際そうなりやすいという。両方で自己暗示の功罪についていこう

根拠のない楽観主義に陥ってはだめだけど、社会も個人も、悲観的になると、実際、そうなりやすい。だから楽観的になる方がよいと中井先生は書いていた。

まるっきり楽観になるというより、気持ちをそうもっていくよう努めるということだと思う。現実を現実として受けとめ、その上でどうココロと暮らしをどう安定させるか考える。絶望に支配されては考えが先へすすまない。

その上で希望的観測をする。何かの実現を願い、注意深く見て、変化や成り行きを予測する。そしてなんらかのアプローチをする。そうすれば、「自己成就の効果」が期待できる。というから、希望的観測を今年の〈スローガン〉にしようかと考えた年初